



麻疹（はしか）は、感染力が強く空気を介して人から人へとうつるため、手洗いやマスクだけで予防することはできず、ワクチン接種だけが感染を防ぐただ1つの方法です。

また、罹っても比較的軽症と思われる風しん（三日ばしか）や水痘（水ぼうそう）ですが、どちらも感染力が大変強く、重症化する例も見られます。妊娠した女性が風しんに感染すると胎児に感染し赤ちゃんが先天異常（先天性風しん症候群）を起こす可能性があり、未来の赤ちゃんを守るためにも重要なワクチンです。

大島町では、麻疹風しん混合ワクチンおよび水痘ワクチンの接種を大島医療センターに委託して実施していますので、お子さんの健康を守るために受けることをお勧めします。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

予防接種の種類・特徴・有効性・副反応に関して、別紙説明書をよく読んで理解し、医師から十分に説明を受けた上で予防接種を受けてください。

種類	MR（麻疹風しん）	水痘（水ぼうそう）
対象者	1期：生後12ヶ月～2歳未満	生後12ヶ月～3歳未満
標準的な接種期間	1歳になってすぐ	1歳～1歳3ヶ月までに開始
回数	1回	2回
間隔	（年長時に2期接種があります）	3ヶ月以上 標準的には6～12ヶ月あけて

☆ 1歳になったらまずMRと水痘の同時接種がおすすめです。（任意接種でおたふくも同時接種可）ヒブの初回終了後7ヶ月および四種混合の初回終了後6ヶ月が経過していたら、その後ヒブ・肺炎球菌・四種混合の追加接種を行ってください。その他のスケジュールについては、個別にご相談ください。

☆ 麻疹風しんの両方、または水痘にかかったお子さんは、接種の必要はありません。

- 費用 : 無料（公費負担）  
ただし、対象年齢を過ぎてからの接種は自費となりますので、ご注意ください。
- 実施医療機関 : 大島医療センター 電話 2-2346  
祭日を除く毎週水曜日 午後2時～ ※完全予約制（1週間前まで）
- 持ち物 : 母子健康手帳、予防接種予診票、健康保険証

☆ 大島町では、妊娠を希望する女性を対象に、風しんの抗体検査および予防接種の助成事業を行なっていますので、ご希望の方はお問合せください。

保護者各位



平成18年に麻疹の地域流行が認められたことをきっかけに、麻疹風しんの予防対策強化として、麻疹・風しんの予防接種を第1期、第2期の2回接種とする制度が開始されました。

麻疹も風しんも感染力が大変強く、重症化する例もみられます。ワクチン接種により予防することが重要です。

大島町では、麻疹風しん混合ワクチンの接種を大島医療センターに委託して実施していますので、お子さんの健康を守るために受けることをお勧めします。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

予防接種の種類・特徴・有効性・副反応に関して、別紙説明書をよく読んで理解し、医師から十分に説明を受けた上で予防接種を受けてください。

1. 対象者 第2期： 小学校就学前の1年間（保育園の年長児）

〔※第1期（1歳～2歳未満）の麻疹風しん混合ワクチン（MR）又は麻疹、風しんそれぞれの単抗原ワクチンを受けている方も、受けていない方も、第2期予防接種の対象となります。〕

2. ワクチンの種類

原則として、麻疹風しん混合ワクチン（MRワクチン）により接種します。

※麻疹、風しんの両方にかかった幼児は、接種の必要はありません。

3. 接種期間 令和5年3月31日まで

（接種期間を過ぎますと自費となりますのでご注意ください。）

4. 持ち物

母子健康手帳、予防接種予診票、健康保険証

5. 実施医療機関

接種場所	接種日時
大島医療センター 小児科	祭日を除く 毎週水曜日 午後2時から ※接種予定日の1週間前までに予約が必要となります。 TEL (2) 2346 (大島医療センター予約専用ダイヤル)

問合せ／大島町役場 福祉けんこう課けんこう係 / 電話 2-1482

# 麻疹風しん（MR）ワクチンについての説明書

麻疹風しん混合ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期予防接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けた上で予防接種を受けて下さい。

## 1. 麻疹風しんワクチンで予防する病気

### （1）麻疹（はしか）とは・・・麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。

感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例発生します。このように予防接種を受けずに、麻疹(はしか)にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。



### （2）風しん（三日はしか）とは・・・風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。

潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病(3,000人に1人)、脳炎(6,000人に1人)などが報告されています。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、胎児に感染して難聴、先天性心疾患、白内障、網膜症などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります（先天性風しん症候群）。

## 2. 麻疹風しん（MR）ワクチンについて

麻疹ウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

1歳前後に麻疹又は風しんにかかる可能性が高いので、1歳になったらなるべく早く1期の予防接種を受けるように努めて下さい。

麻疹及び風しんワクチンも1回の接種で95%以上の子どもは、免疫を得ることができますが、抗体を獲得できない場合に備え、また年数がたつて免疫力が低下することを防ぐ目的で、2回の接種が行われるようになりました。第1期対象年齢は、1歳～2歳未満、第2期の対象年齢は、小学校就学前の1年間、いわゆる幼稚園、保育所等の年長児が対象者となります。

## 3. 副反応について

麻疹風しん混合（MR）ワクチンで見られる主な副反応は、発熱と発疹です。接種後の37.5℃以上38.5℃未満の発熱は、第1期で約6.6%、第2期で約2.8%の発現率です。38.5℃以上の発熱は第1期で約11.6%、第2期で約3.8%、発疹は第1期で約4.7%、第2期で約1.1%の発現率でした。他に、じんましん（1期約2.4%、2期約0.9%）リンパ節腫脹（1期約0.6%、2期約0.5%）関節痛（1期約0.1%、2期約0.9%）、熱性けいれん（1期約0.3%、2期約0.1%）が見られました。

これまでの麻疹ワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシーや血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

## 4. 接種前の注意

- ① 年間にわたって接種期間を準備してありますので、健康状態が良好で、元気の良い時を選んで受けましょう。当日体調が悪と思ったら、医師に相談しましょう。
- ② あらかじめ、予防接種について通知やパンフレットをよく読んで、必要性や副反応についてよく理解

しましょう。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問しましょう。

- ③ 保護者など、お子さんの日ごろの健康状態をよく知っており、医師の質問に十分に答えられる方が連れていってください。
- ④ 接種前日は入浴させ（またはシャワー浴）、当日は清潔な肌着を着せてください。
- ⑤ 予診票は、接種する医師への大切な情報です。接種当日の体温を計り記入することはもちろん、必ず全項目について責任をもって記入して下さい。
- ⑥ 母子健康手帳を必ず持って行きましょう。

## 5. 接種することができない場合

- ① 明らかに発熱（37.5℃以上）しているお子さん
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- ③ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあるお子さん
- ④ ポリオ、麻しん風しんの予防接種において、妊娠していることが明らかな方
- ⑤ その他、予防接種を行なうことが不適切な状態と医師が判断した場合

## 6. 予防接種を行なうにあたり注意を要する場合

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ② 前回の予防接種で2日以内に発熱のみられた方、または全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがあるお子さん
- ③ 過去にけいれんの既往のあるお子さん
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされているお子さん
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーを呈する恐れのあるお子さん

## 7. 接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後、30分程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。急な副反応が起こることがまれにあります。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、注射部位をこすることはやめましょう。
- ③ 接種当日はいつも通りの生活をして差し支えありませんが、激しい運動は避けましょう。

## 8. その他

- ① 生ワクチン（麻しん・風しん、BCGなど）接種後4週間以内、不活化ワクチン（4種混合、日本脳炎、インフルエンザなど）接種後1週間以内は、ほかのワクチンの接種を避けてください。
- ② 急性感染症にかかった直後は、予防接種を受けても免疫がつきにくくなる可能性があります。麻しん・風しん・水痘・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は治癒後4週間以上、突発性発疹症は治癒後3週間程度、インフルエンザ・手足口病・ヘルパンギーナ・無菌性髄膜炎の治癒後3～4週間程度、溶連菌感染症やマイコプラズマ肺炎は治癒後2週間程度、それぞれ経過するまで予防接種は控えましょう。

## 9. 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に他の病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診察を受けてください。予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

☆ 大島町では、妊娠を希望する女性を対象に、風しんの抗体検査および予防接種の助成事業を行なっていますので、ご希望の方はお問合せください。

問合せ／大島町役場 福祉けんこう課 けんこう係 / 電話 2-1482